



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース



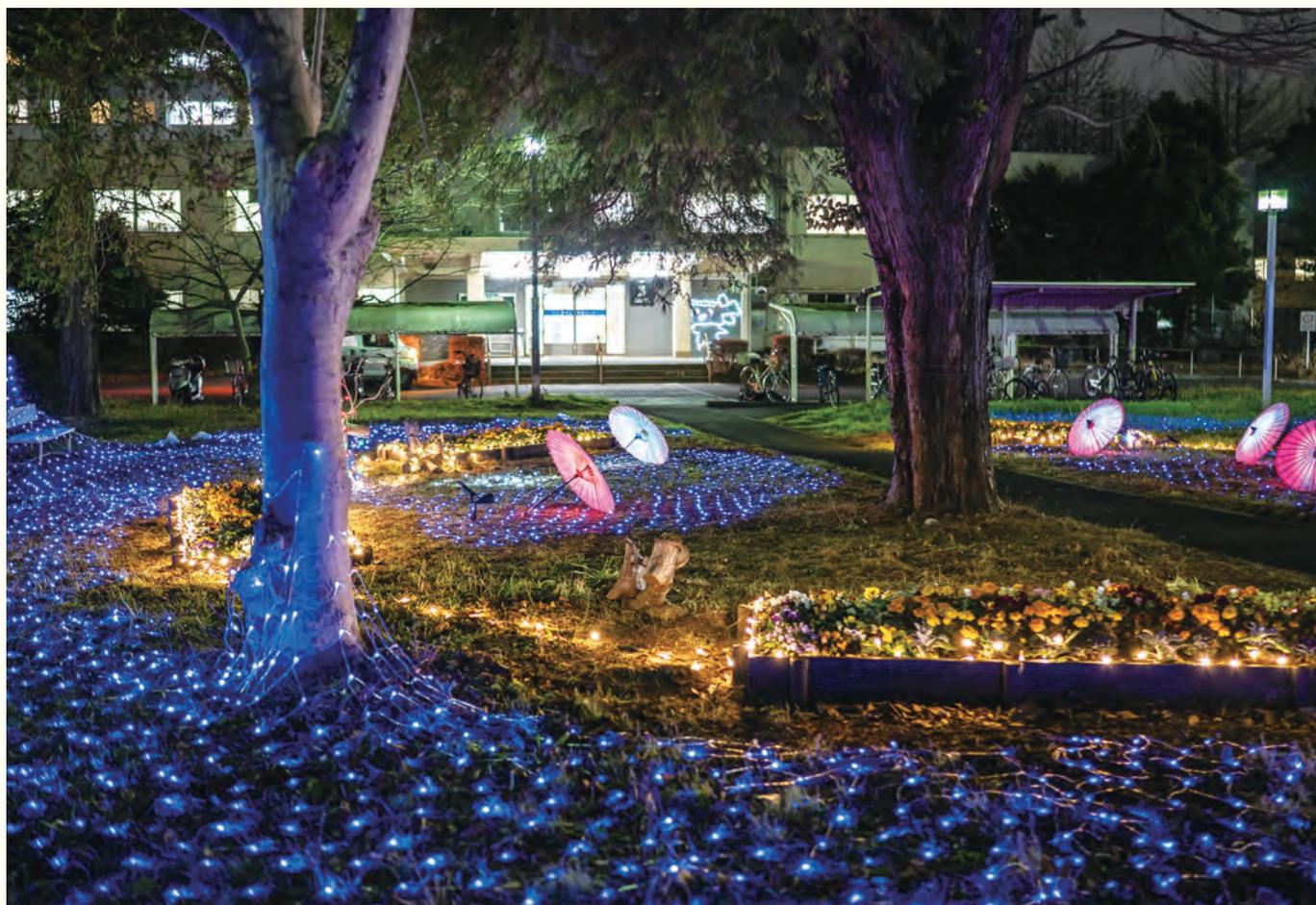
Vol. 88

2026.1月発行

Topics

第31回

日本最小侵襲整形外科学会を開催しました



病院正面玄関前のイルミネーション(令和7年12月25日)

理念 患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針 患者さんの権利と意思を尊重します。安全で優しいチーム医療を提供します。
倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。地域医療連携の促進を図ります。
骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

独立行政法人国立病院機構

村山医療センター 〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210 URL : <https://murayama.hosp.go.jp/>



新年のご挨拶



院長 谷戸祥之

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、2025年も様々なイベントがあり大忙しでした。春の看護の日をはじめ、7月に”脊髄損傷を語る会“、9月には骨粗鬆症学会、10月には世界骨粗鬆症デーのイベント、秋の学会シーズンなど村山のアカデミック活動は極めて充実していたと思います。特筆すべきは11月8日に開催された第79回国立病院総合医学会への参加と第31回日本最小侵襲学会であったと思います。詳細は別記事に記載されておりますが、この時ほど村山医療センターの底力を実感したことはありませんでした。

村山医療センターの活動はホームページとInstagramで報告しております。2025年1月から12月までのInstagramの記事は84件でした。ホームページの閲覧数は月に6～7万件ですが、Instagramの閲覧数は月あたり8万件、フォロワーも1000人をこえております。多くの方々に興味を持っていただけるよう続けてまいります。

最も重要な新外来棟及び新手術棟の建て直し計画は8月から本格始動となりました。まだ数年かかる見込みですが、素晴らしいものを作っていきたいと思います。特に新手術棟は再生医療の実行を目標としております。脊髄損傷患者さんに対するiPS細胞を利用した移植手術を当院で行うための様々な機材の準備はほぼ完成されました。

長年の課題であったモノレールの延伸計画も決定されました。少しでも当院に来院される方が楽になれることを期待しております。

近年、日本中の医療施設が経営に苦しみ、赤字病院も多い中、当院はなんとか黒字経営を続けています。これは近隣の先生方から多数の患者さんの御紹介をいただいた結果と考え感謝しております。なんとか2025年度を黒字でいけるよう職員は努力しております。引き続き村山医療センターを宜しくお願いいたします。

新年のご挨拶

臨床研究部長
地域医療連携室長
植村 修

みなさま、新年明けましておめでとうございます。

村山医療センターの新病棟が開棟して6年目を迎えようとしています。まさに新型コロナの脅威が拡大し始めた時に開棟したため、その先行きは不安で満ち溢れていましたが、なんとか順調に運営できてきました。これもひとえに連携医療機関のみなさまのご協力の賜物です。

さて、コロナ禍が明けても、世界は戦争や断絶など多くの問題が矢継ぎ早に起こっています。そんな先行きが見えない状況ですが、経済が低調になると世相が悪くなり、人も寛容さを失うことは、この日本だけでなく世界中でも見られる現象です。しかし、人はそもそもが社会的な動物で、他者の存在なしには存在し得ない、非常にか弱い生き物です。だからこそ、困難な時期に寛容さと連帯をしっかりと維持していくことはとても大事なことだと思います。

アメリカの文豪スタインベックの怒りの葡萄。その最後に描写されるのは、ギリギリにまで追い詰められた人間のそれでもわずかに残った寛容さを示しているそうです。個人的には読後感ワースト2位(1位はもちろん、ヘルマン・ヘッセの車輪の下です)の、頼まれても二度と読まない作品ですが…。

昨今、医療をめぐる経営環境は厳しくなっております。報道によれば病院のおよそ7割が赤字だそうです。医療機関も人が運営しているため、もしかしたら内にこもってしまうところもあるかもしれません。しかし、そんな厳しい状況だからこそ、そしてクリニックから三次救急の病院まで、それ単体では決して立ちゆくことのできないものであることをしっかりと認識し、お互いの連帯を強めていくことが必要だと思います。その連帯の一つとして、村山医療センターも医療連携を推進していきたいと考えております。



第31回

日本最小侵襲整形外科学会を開催しました

院長・谷戸祥之

2025年11月8日、東京駅から徒歩10分の所にある大手町プレイスホール&カンファレンスセンターで第31回日本最小侵襲整形外科学会を開催しました。

伝統的な本学会を主催させていただいたことに大変感謝をするとともに責任の重大さをひしひしと感じておりました。



開会の挨拶(谷戸院長)



座長(谷戸院長・高瀬師長)

学会当日は150人を超える方にご来場いただき盛況な会でした。

パネルディスカッションは二つ企画しました。まずは手術室看護師のセッションでチーム医療の重要性について討論が行われました。次に骨粗鬆症についてのテーマで討論が行なわれました。患者さんに対しより低侵襲な治療を展開するには骨粗鬆症のコントロールも重要であることが確認されました。



演者(田淵看護師)



座長(古川医師)



演者(松川医師)

プログラムは、招待講演4題、モーニングセミナー3題、ランチョンセミナー3題、アフタヌーンセミナー3題、ハンズオンセミナー1題という盛り沢山な内容でした。参加していただいた多くの先生方に感謝いたします。お忙しい中本当にありがとうございました。

個人的な感想になりますが、今回の学会は大成功であったと思います。理由としては参加者が多く、極めて活発な意見交換が行われたことです。もうひとつは参加した当院の職員たちがみな一様に“今回の学会はよかった”、“楽しかった”、パネリストからは“看護師人生で忘れられない学会になった”などの声があったことです。



演者(矢内医師)



演者(許斐医師)



演者(植村医師)

学会を見学に来た看護師達からも“自分も是非やってみたいと思った”などの意見があり、職員たちがすごく盛り上がってくれたことです。

医療従事者としては毎日の診療ももちろん大事なことです。こういった学会活動、研究報告も重要なことです。今後も是非楽しく仕事をしていきたいと思えます。



第79回 国立病院総合医学会を 金沢で開催されました

第79回国立病院総合医学会が2025年11月7日・8日の2日間にわたり金沢にて開催されました。



金沢到着

国立病院総合医学会は年に1度、全国の国立病院機構に属する病院と国立病院が一同に会し、それぞれの病院における診療・教育・研究について成果を発表する場となっています。

発表を病院の実績として共有することで全国の病院への貴重な情報となり医療の発展に繋がられます。



佐藤看護師



高島先生



榎本臨床工学技士



澤田放射線技師



柴田先生

当院からもポスター発表13題、口演発表4題の登録がされました。熱気あふれる会場で発表者全員が日頃の業務の成果を発揮し、病院を代表して堂々と講演しておりました。



平賀看護師



小泉看護師

今年は過去最高の6演題のベストポスター賞を受賞しました。

これは、当院で日頃から積み重ねてきた研究活動が学術的に高い評価をいただけたこととなります。

来年度以降も多くの発表を行い、よりよい診療につなげられるよう病院一丸となって患者さんの力になれるよう努力してまいりたいと思います。



竹光先生

医療社会事業専門員 寺澤 寛人

演題:障害者虐待事例を通じてみるソーシャルワーク実践の課題と展望

今回、私が担当した事例の支援についてポスター発表を行いました。ソーシャルワーク支援に非常に難渋した事例でしたので、ポスターにまとめる作業が大変でしたが、現行の社会制度の穴や支援の難しさについて理解を深める良いきっかけになりました。

ベストポスター賞を受賞できたことは大変うれしく思います。今後も医療福祉の発展に少しでも貢献できるよう日々精進していきたいと思います。



リハビリテーション科 理学療法士 新島 拓也

演題:脊髄損傷患者を対象とした車椅子体育療法(Gymnastic Therapy)の有効性の検討 ~20m走タイム・握力・肩腕力に着目して~

今回は当院で実施している車椅子体育療法についての研究を発表しました。全国でも数少ない施設でしか行っていない非常に良い取り組みをしているのに院外へ報告しないのはもったいない、というのが研究をしようと思ったきっかけです。

はじめての学会発表ということもあり、統計ソフトの使い方や図表のまとめ方を一から勉強して苦労もたくさんありましたが、無事に終わることができました。このような賞をいただけて光栄です。

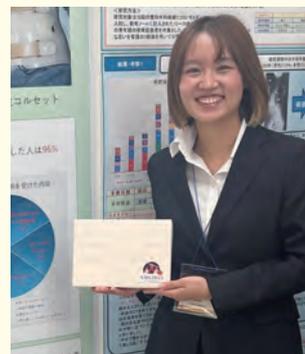


看護部看護師 飯島 晴香

演題:腰椎硬性コルセットを装着した患者が退院後困難と感じる場面についての実態調査

この度はベストポスター賞をいただくことができ、驚きと同時に大変嬉しく思っています。今回、学会でポスターセッションに参加することが初めてだったため、ポスター作成から発表まで非常に緊張しました。

日頃からご指導くださる上司や先輩方、予演会でご指導いただいた各部署の皆様のおかげで受賞することができました。ご協力とご支援本当にありがとうございました。



薬剤部薬剤師 鈴木 健

演題:インシデント発生の原因分析と削減に向けた対策

このたび、薬剤部内で発生するインシデントの原因分析と発生抑制に向けた取り組みをまとめたポスターが賞をいただき、大変光栄に思います。

日々の業務で気づいた課題を形にするまでには苦労もありましたが、周囲の方々のご協力により無事に発表することができました。

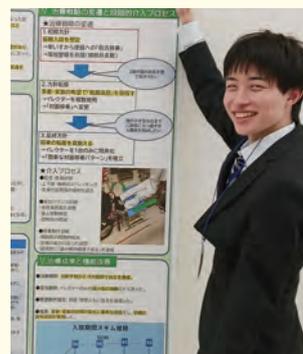
今回の受賞を励みに、より安全で信頼される薬剤業務の実現に向けて今後も取り組みを継続していきたいと思っております。



リハビリテーション科 作業療法士 蓮見 福

演題:交通外傷によるT h 9以下完全麻痺症例に対する排泄動作支援 ～最小限の入院期間・住宅環境改修によるトイレ動作再獲得の試み～

作業療法士となり初めて脊髄損傷による完全麻痺の患者様を担当し、ご家族の思いに寄り添うことを心掛けて介入しました。予演会や先輩方の手厚い指導を受け、不安を抱えながらも当日は自信をもって取り組みを伝え、ベストポスター賞を頂くことができました。貴重な経験となり大きな自信につながりました。今後も学びを生かし患者様の生活支援に努めたいと思っております。



事務部庶務係長 羽毛田 透

演題:当院における広報活動の取り組みと見えてきた課題

当院の広報活動についてポスター発表を行いました。この度、受賞できたのは、広報企画室全員の日々の取り組みの成果だと思っております。

病院広報活動は、「安心して選ばれる病院」になるための基盤です。患者さんや関係機関に向けて病院の強みを伝え、信頼とブランドを築くことが、持続可能な病院経営に直結します。

2026年はAIがどんどん普及しますが、AIに真似できない取り組みを行っていききたいと思います。



第52回

武蔵村山市民駅伝競走大会に 参加しました



令和7年12月14日(日)第52回武蔵村山市民駅伝競走大会が開催されました。今年も昨年同様、総合体育館及び市内駅伝コース(6区間)での開催となり、武蔵村山市内の事業所、市民、小学生、中学生など全98チームが参加されました。

当センターからはドクターチーム、リハビリチーム、看護師男女混合チーム、コメディカルチーム、女子チームの計5チームが参加しました。

当日はあいにくの雨で、寒さが一段と厳しくなりましたが、村山医療センターの出場メンバーは、さすが医療従事者、入念なアップで無事に全チームとも怪我なく終えることができました。



レースの結果は、一般の部で40チーム中、コメディカルチームが20位、リハビリチームが22位、ドクターチームが第34位、看護師男女混合チームが第37位でした。上位には入れませんでした。最後まで諦めない走りは良かったです。

女子の部では7チーム中、4位と順位は上位ではありませんが、6区で区間賞を取る職員が現れ、今後、期待したいところです!!

武蔵村山市民駅伝で、沿道から皆様からの温かい声援を受けると、武蔵村山市の市民、事業所とのつながりを高める場であることを強く感じました。これからも地域の皆様と交流の場として駅伝に参加したいと思います。



救急医療功労者表彰を受けました

令和7年11月14日に、北多摩西部消防署にて開催された火災予防業務協力者等表彰式において、地域の救急医療活動に対する貢献と日頃の自衛消防活動が高く評価され、北多摩西部消防署より表彰を受けました。

この表彰は、救急医療業務を長年にわたって行い、救急医療体制の整備に貢献するなど救急医療に関する功績が顕著な病院に授与されるものです。

今後も、地域の皆様の安心と安全のため、救急医療のさらなる向上に努めてまいります。



「消防・災害訓練」を実施しました



12月16日、火災・地震を想定した消防・災害訓練を実施しました。

訓練は、寒空のなかでの実施でしたが、職員全員がそれぞれの持ち場で、緊張感が伝わる熱気がこもった訓練に取り組んでおりました。

訓練は定期的実施することで、職員が自身の役割を再確認する場となり、また、訓練を通じて改善すべき点も発見できる場でもあります。いつ起こるかわからない災害を備えて、訓練経験を蓄え、災害対応力向上に努めていきたいと思っております。



寄付募集の ご案内



当院では、「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供する。」という理念のもと、安全で安心できる診療環境を提供していくことを目的に寄付金を受け付けております。

また、脊髄損傷治療を実践する医療機関として、脊髄損傷患者とともに、社会にでていく障害者ピアサポーターをさまざまな点から応援する活動もしております。皆様からいただいた寄付金は、診療機能向上の果たすための医療機器への購入や外来棟等の建替整備に活用させていただきます。

このような活動の趣旨にご理解いただき、皆様の格別なご支援をお願いいたします。

問い合わせ先：管理課 庶務班長 ☎042-561-1221(代表)

Recruitment

一緒に働いてみませんか

職員募集



募集中の職種

医師、看護師
理学療法士、作業療法士
言語聴覚士、薬剤師
非常勤職員
その他

詳細はホームページをご覧ください▶



外来診療担当医師

令和8年1月1日現在

一般外来 受付時間:初診8:30~11:00迄 再診8:30~12:00迄

| 診療科等 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 備考 | | |
|------------|------------------|----------------|-------------------|-------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------------------------|
| 内科/リウマチ科 | 片 寄 | 岡 田 | 片 寄 | | | | | |
| 外 科 | 大 石 | 飯 野 | 大 石 | 飯 野 | 大 石 | | | |
| 整形 外科 | 再 診 | 脊 椎 | 竹光 ○○藤吉 ○古川 | ◎小林 ◎北川 | 橋本 鈴木 交代制医師 | ○○許斐 加藤 ○矢内 | ○○谷戸 松川 ○柴田 | ◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎) |
| | | 関 節 | 森重・丸岩 | | 高島・春日 | 吉 原 | 笹崎・中村 | 股・膝関節・下肢 |
| | | 肩 | | 吉 田 (第2,3,4週 13:30~) | | | | |
| | | 一 般 | | 武 内 | | 山 本 | | |
| | 初 診 | 交 代 制 | | | | | | |
| リハビリテーション科 | 堤 | 植 村 | 松 田 | 大 嶋 | 下 村 | | | |
| 歯 科 | 吉 武 (第1,3,5週) | 吉 武 (第2,4週) | 吉 武 | 吉 武 | 吉 武 | 予約制 | | |

専門外来 (全て予約のみ)

| 診療科等 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 備考 |
|------------------|--------------------------|--------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-----|
| 脊椎脊髄センター | 藤 吉 (9:00~9:30) | 加 藤 (9:00~9:30) | 藤吉・小林 (隔週) (9:00~9:30) | 古川 (第2・3・4週) (9:00~9:10) | 矢 内 (第1・3週) (9:00~9:20) | 予約制 |
| 内科リウマチ | | | | 片 寄 (13:00~) | | 予約制 |
| 装具外来(リハビリ科) | リハビリ科医師 (13:00~) | | | | | 予約制 |
| 側 弯 | 許斐(第3週 午後) 古川(15:30~) | | | 矢内(15:00~) 許斐(16:00~) | 柴 田 (15:30~) | 予約制 |
| 骨粗鬆症 ・ 筋老化 | | | | | 竹 光 (第1・2・3・5週 13~15時) 矢 内 (第1・3週 午前) 加 藤(貴) (第2・4週 午前) | 予約制 |

※循環器科、皮膚科、精神科、神経内科については、一般外来を行っていません。

アンケートのお願い

今後の広報誌作成の参考とするため、読者の皆様のご意見をお聞きかせください。右のQRコードよりアンケートにご回答いただけます。

